

公園内で見られる植物

写真は1月8日（日）
自然観察会で見られた
植物です



タネツケバナ（科）

春の七草のナズナに間違えられることもあるようですが、果実の形が違うので判別は容易です。種もみを水に漬け、苗代の準備をすることで花が咲くことからこの名が付いたようです。他のあぜや水辺に群生する事が多いです。



イシクラゲ (陸棲藍藻類の一種)

湿った土の上に突如として現れた海藻のような物。これが日本では古来、きれいに洗って湯通しし、酢の物などで食されていたと言うのですから驚きました。

新しいタンパク質源・食物繊維源として、血清中及び肝臓コレステロール濃度を低下させる機能があり、栄養改善に有望であるという研究報告もあるようです。食べてみましょうか？



フユイチゴ (バラ科)

緑色に赤い実は冬の時期には一番映える色ですね。つまんで食べてみようかと思いますが、フユイチゴの酸っぱさと、種が口に残るのを知っているので、やめておきました。

秋に花を咲かせ秋から冬にかけて実を付けるのでフユイチゴという名前が付いたようです。



カマキリの卵 (科)

カマキリは産卵してから条件が合えば1ヶ月半で、孵化するそうです。ただ大体秋に産卵して1ヶ月の間に寒くなるので、春まで孵化できず冬眠状態に入っているそうです。いつ孵化させるかは産卵する親カマキリにかかっているそうです。孵化したカマキリは弱いので、気温やエサ不足に耐えられず全滅してしまうこともあるそうです。自然界での子孫の生き残りをかけるのは大変なようです。



クスサン (ヤママユガ科)

大型の蛾になります。幼虫の時も大型の毛虫で、白色の長い毛をはやしているのでシラガタロウと呼ばれます。樹木の葉を食べて固い網目の繭を作って越冬します。



ウシハコベ (ナデシコ科)

春の七草のハコベの仲間ですが、ハコベに比べて全体的に大きいため牛に例えて、ウシハコベとい
います。ハコベとの違いは、花の時期にめしべの先（花柱）が5裂しているのが特徴です。
ハコベと間違えて食べる人もいますが、害はないようです。



オオバヤドリギ (オオバヤドリギ科)

常緑樹に寄生するツル性植物です。とても低い枝に寄生していて、寄生しているとは思えない大き
さです。若い枝葉には赤褐色の綿毛状の星状毛が密生しています。